

金光寺こんくわうじは七条間の町の行当ぎやうたうにあり、七条道場だうじやうと称す。時宗じしゅうにして本尊は阿弥陀仏を安置す。脇壇には一遍上人べんの像あり。「此上人の俗姓は伊予国河埜七郎通久いよのかうのみちひさが息なり。ある時別府通広べつぷのみちひろが妾二人碁盤を枕として臥す、かの両の鬘蛇と化して頭を立て闘ふ、通久これを見て大に驚き、忽剣をぬいて段々に斬、これより妄執輪廻を觀察して不羈の僧となる、時に建長年中なり、始は台教を学び、又熊野くまのに詣て権現の示現を蒙り、四句の文をさづかり、これより時宗じしゅうと改め、六十万人決定往生の札を弘む」旧此地は仏工法橋定朝が宅なり、後に上人に寄附して寺となす。